

原音を追究すると ヘッドホンの素材は“木”に行き着く

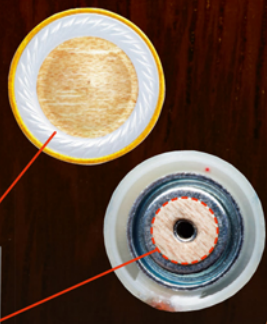
世の中にあふれるヘッドホンの中で、ひときわ異彩を放っているのが、世界で初めて振動板に“木”を採用したJVCの「ウッドシリーズ」の新モデルだ。“木”の美しい響きと自然な音の広がりを追究した結果、ハイレゾ音源にも対応。これまでにない圧倒的な臨場感を実現した最新モデルが奏でる、美音の源泉を追った。

ウッドドーム振動板 新開発

音の伝わりが速く、余分な振動を適度に吸収する振動板として理想的な素材が、天然素材の“木”だ。そうした本来の特性を損なわないよう薄膜に加工。さらに“木”の薄膜をドーム型に成型されたベース材と貼り合わせて、ウッドドーム振動板が出来上がる

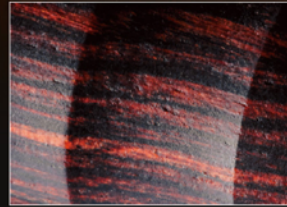


振動板には、“木”の中でも音響特性に優れたカバ材を採用。ピンセットでつまんでみたが、マイクロ単位で成型された滑らかなドーム形状の美しさに驚かされる。ハイレゾ対応の最高級のサウンドは、細部まで気配りされた、こうした作り込みにより生み出されるのだと納得させられる



ウッドプレート 新開発

余分な振動を“ウッドプレート”によって抑制することで、音の分解性能を高めているのだ。HA-FX850 / 750に搭載



ウッドハウジング 新開発

素材を“木”にすることでウッドドームユニットの特性を最大限に引き出す。自然な音の広がりや繊細な余韻が加わり、臨場感豊かなサウンドを奏でられる



木以外のパーツにもさまざまな工夫点が

良質なサウンドを実現するために“木”の素材を採用していることは重要だ。だがすべての素材を“木”にすればいいわけではない。“木”と合わせて、“プラス(真鍮)”の素材を適所に配置しているのもウッドシリーズの特長。この両者の組み合わせで、音の速さと柔らかさを両立させたサウンドを実現した。さらにラバー素材のイヤピースにも、細かい工夫が見て取れる。内側をよく見れば、ディンプル(くぼみ)が配されているのがわかるだろう。これは音の濁りを抑える効果があるのだ。

プラスリング



イヤピース断面

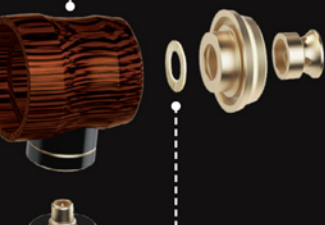


ウッドダンパー 新開発

ウッドドームユニットを、比重の大きいプラス(真鍮)リングと“木”を使った“ウッドダンパー”で押さえ込む新構造“アコースティックハイブリッドダンパー”を採用。ユニットの振動ロスを広帯域で低減し、サウンドの解像度やクリアさを高めている

ウッドディフューザー 新開発

振動板で発生させた、外に向かっていく音を適度に拡散させるのが“ウッドディフューザー”だ。音の広がりが、より滑らかで自然なものになる



ウッドリングアブソーバー 新開発

ハウジングの響きを最適な形で制御することで、濁りのない澄みきったサウンド形成に貢献している。HA-FX850 / 750に搭載

ステージの奥行きを感じさせる
立体的かつ緻密な表現力

奏者の位置さえ目に浮かぶ
シリーズ最高峰の
圧倒的臨場感

伸びやかなボーカル再現力で
豊かな音場空間を創造

JVC HA-FX750

2万8000円前後+税

新開発の口径10mmのウッドドームユニットで迫力のサウンドを実現。“ウッドドーム振動板”の背面に、新たに“ウッドプレート”を搭載し、ユニット内の音の響きの質を向上させている

- SPEC**
- 型式:ダイナミック型
 - 出力音圧レベル:105dB/1mW
 - 再生周波数帯域:6Hz~40kHz
 - インピーダンス:16Ω
 - 質量:約11.2g(コード含まず)

JVC HA-FX650

1万9000円前後+税

“木”の振動板を内蔵した口径8.5mmのウッドドームユニットを採用。ハウジングをはじめ、パーツの各所に“木”を採用した「ウッドシリーズ」の基本型だ。ドーム型に薄膜加工されたウッドドーム振動板が、解像度の高い澄み切ったサウンドを再現する

- SPEC**
- 型式:ダイナミック型
 - 出力音圧レベル:100dB/1mW
 - 再生周波数帯域:6Hz~30kHz
 - インピーダンス:16Ω
 - 質量:約9.5g(コード含まず)

最も原音に近い音を 再現できるのが「木」の振動板

「ウッドシリーズ」のイヤホンに耳に着け、お気に入りの音楽を再生する。目をつぶると、音が雪のように降り注いでくる。いや、その雪も、結晶までが見えるように、微細な音の響きが伝わってくるのだ。当然のこと、演奏されている情景や歌っているボーカリストの立ち位置までが再現され、音を通して空間自体が、はつきりと頭の中に浮かび上がってくる。

「木」の振動板が、最も原音に近い音を再現できます。そのため、空間の描写にも優れているんです」と断言するのは、同シリーズを開発した宮澤貴之さん。さらに、「木」を使うことで音が滑らかになるんです」と続けてくれた。これは、木の特性を正確に把握し、さまざまな木のパーツを配置したことで可能になった。たしかに「ウッドシリーズ」は、音の響きが減衰していく様子に不自然さが全くない。スーッと消えていく余韻の自然さを聴けばわかるだろう。

内部構造を見ると、高級な腕時計のように、パーツが小さな筐体にぎっしりと収められている。これほどパーツにこだわったヘッドホンは他に類をみないJVCのこだわりだ。「音が振動板から人の耳に届くまでに、随所で余計な音が発生してしまわないように、それを抑えて自然に拡散させるために、細部まで気を配って

いくと、この部品点数になります」と説明するのは、宮澤さんとともに開発を担当した永田光さんだ。

パーツのひとつ、ウッドドーム振動板を見せてもらった。慎重にピンセットで目に近づける。直接触ると壊してしまいそうな薄さと、マイクロレベルで調整された形状と大きさ。こうした精密なパーツが組み合わせることで、ハイレゾ、高解像度な音源に対応すると言われれば納得だ。永田さんの話は、ハウジング内だけにとどまらず、イヤピースにも及ぶ。瞬時には分からないほどのディンプル(くぼみ)が、内側に設けられているのだ。「ここにも工夫を凝らせば、さらにクリアな音がつくれる、原音に近づける、ということがわかったんです」

「神は細部に宿る」というが、見えないうちの音や振動をコントロールするために、手を尽くせるだけの工夫がされている。その音づくりへの誠実さや原音を探究する姿勢は、「ウッドシリーズ」を聴くことで誰もが体感できるはずだ。



オーディオ事業部 技術統括部 アコースティック技術部 永田光さん
オーディオ事業部 技術統括部 アコースティック技術部 宮澤貴之さん